

交通渋滞を減らすための 公平性を考慮した混雑課金制度設計



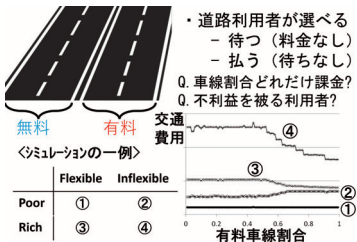
キーワード ボトルネック混雑、交通経済学、混雑課金、公平性、パレート改善

坂井 勝哉 SAKAI Katsuya

工学研究科共同研究講座 特任講師（常勤）
モビリティシステム共同研究講座



ここがポイント！【研究内容】



交通渋滞の原因は需要のピークであり、需要の波に応じて動的な混雑税を課金できれば、“理論的には”渋滞が緩和されます。しかし、お金による解決では、高所得のヒトが賛成する一方、低所得のヒトは反対するでしょう。そこで、公平性を担保できる（制度導入によって利得が減少するヒトがいない）混雑課金制度の理論を構築しています。たとえば、すべての道路に課金するのではなく、一部の車線のみ課金する制度が考えられます。現在は、電気自動車の普及を見据え、道路の混雑に加えて充電スタンドの混雑に対する理論を構築中です。

応用分野 都市・社会基盤分野、環境設計学

論文・解説等

- [1] K. Sakai et al., *Intl. J. of Sustainable Transp.*, 10, pp.737-748 (2017)
- [2] 坂井ら, 土木学会論文集D3, 72(5), pp.1_607-1_616 (2016)
- [3] C. Huang and K. Sakai, *10th Asian Conf. in Regional Science* (2020)

連絡先 URL

<http://mobility.jrl.eng.osaka-u.ac.jp/>

